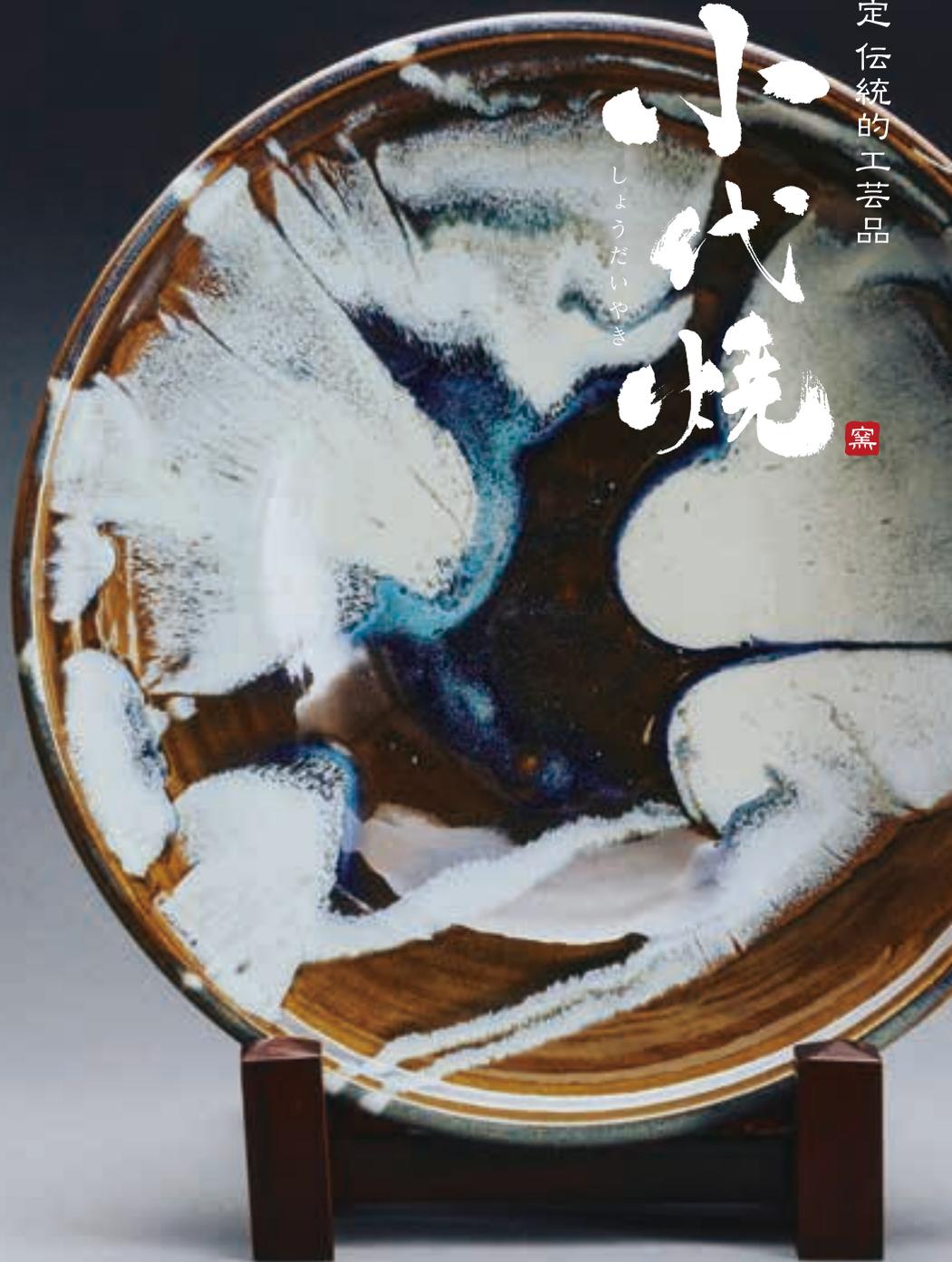


国指定 伝統的 工芸品

# 小代焼

しょうだいやぎ





～小代の土と釉薬の景色～

## —— 小代焼 歴史とその魅力 —— 素朴さ、自由さ、美しさ。

約四百年もの間、人々の生活に寄り添い愛され続けてきた小代焼。熊本県有数の窯元集積地・小岱山麓を中心に焼き続けられている、九州を代表する陶器です。

小代焼は鉄分の多い小代の赤土を使った素朴で力強い作風が特徴です。釉薬には藁灰や木灰、長石などが用いられ、その深みのある美しさと自由奔放な流し掛けの模様が大きな魅力です。同じ窯で同じ釉薬を用いたとしても、釉薬の濃度や焼成加減などの条件によって、ひとつひとつ違った表情を見せます。

小代焼の起源は、江戸時代の寛永九年、豊前藩・小倉城主、細川忠利の熊本移封にもなっており、豊前上野で作陶をしていた陶工源七（牝小路家初代）と八左衛門（葛城家初代）が小岱山麓に移り住み、窯を開いたことに始まります。

細川家の御用窯として、茶器や日用食器などが焼かれました。明治維新後は一時衰退しましたが、昭和になり近重治太郎や城島平次郎らが復興に踏み出し、現在に至ります。「腐らない・臭いが移らない・湿気を防ぐ・毒消しの効果・延命長寿」の五徳があると云われ、五徳焼と称されることもあります。

平成十四年には熊本県内の十二の窯元が集まり「小代焼窯元の会」が発足しました。平成十五年に国の伝統的工芸品に指定され、現在は十一の窯元が会員として、熊本県内を始め東京・大阪・福岡などでも展示会を行っています。本誌では、各窯元の個性溢れる作品をお楽しみいただけます。

【小代焼の分類】釉薬の配合の違いにより主に「青小代」「黄小代」「白小代」に分類されます。

※釉薬とは…焼き物の表面を覆うガラス質。見栄えや手触りを左右する他、水分や汚れ、衝撃からうつわを守る役割があります。

📷 小代焼パンフレット フォトナ

インスタグラムにて、本誌掲載の窯元の作品や作陶風景の写真を多数ご覧になれます。「小代焼パンフレットフォトナ」でご検索ください。





小岱焼しろ平窯 TEL・FAX:0968-62-0538

〒864-0057 熊本県荒尾市大島25-3

5 営業時間:10:00-18:00 定休日:不定休 駐車場:5台



Instagram



# 小岱焼しろ平窯

窯元 城島伸明

古小代の心に  
更なる芸術性を求めて

佐賀・有田町で陶芸を営む城島家を生家に持つ初代・平次郎氏が、衰退した小岱焼を再興しようと昭和二十一年、荒尾市にしろ平窯を開窯。現在三代目として窯を守る伸明氏は、伝統的な藁灰や長石などを調合した釉薬の他、鉄分を混ぜた釉薬に藁灰をかけツヤを消した鉄釉の作品なども手掛ける。強度と保温性を誇る合掌造りの屋根に、先代の窯を大切に心が垣間見える。展示室の奥には、初代と先代の大作が鎮座し見守る。先代の遺した窯や技法など、伝統を守りながら、更なる芸術性の向上を目指している。

鉄釉どんぶり 口径約17cm×高さ約8.5cm



小岱焼末安窯 TEL・FAX:0968-68-0058

〒864-0166 熊本県荒尾市府本1712-2

営業時間:9:30-18:00 定休日:不定休 駐車場:5台

HP <http://www.sueyasugama.com/> E-mail [sueyasugama@gmail.com](mailto:sueyasugama@gmail.com)



Instagram

# 小岱焼末安窯

窯元 末安英介 末安洋介

小岱の趣と遊び心を  
暮らしの中に

昭和四十三年、先代孝登氏がしろ平窯・城島平次郎氏の隠居窯を継ぎ末安窯を開窯。現在は、多数の受賞歴を持ち国内外でも展示歴のある英介氏と、伝統の中にも遊び心のある作陶を心掛ける息子・洋介氏で作陶している。「その産地を訪れてみたくなるような焼き物」を信条とする洋介氏は、自ら小岱山の土を採土し、釉薬の原料となる藁・木灰なども地元産に拘る。自然に感謝し四季を感じながら作陶に励む洋介氏。使い手に楽しんでもらえるうつわを自らが楽しんで作ることで、「気付けば日常にある」伝統工芸を目指している。

菓子器 口径約23m×高さ約7cm



小代焼中平窯 TEL:0968-68-7326 FAX:0968-68-7153  
 〒864-0165 熊本県荒尾市樺1192  
 営業時間:9:30-17:00 定休日:水・木曜日 駐車場:20台  
 HP <http://www.nakaderagama.jp/> E-mail [h0306tomonari@yahoo.co.jp](mailto:h0306tomonari@yahoo.co.jp)



Instagram



## 小代焼中平窯

窯元 西川 講生 西川 智成

小代の力強い意匠に  
 柔らかな色彩を

相良藩の御用窯だった一勝地焼いっしょうぢやきの成田勝人氏なりたかつひとに師事し腕を磨いた西川講生氏にしわらせい。小代焼ふもと窯で更に腕を磨き、原料の土が豊富な中平の地に平成三年開窯。息子・智成氏ちせと二人で作陶している。窯のすぐ裏手で採土し、仕上げる器に合わせ質感を変えた粘土を仕立て、釉薬ゆうやくも独自に調合する。独特の黒い釉薬は数年間実験を繰り返して完成させたもので、原料に鉄分を加え、酸素の少ない還元焼成の炎により高級感のある黒を発色させている。伝統的な作風の他、智成氏の作るユニークな置物など、二世代で光る個性を放っている。

黒釉面取ポット 胴体部分幅約11cm×高さ約13.5cm



小代焼ふもと窯 TEL:0968-68-0456 FAX:0968-68-4476

〒864-0166 熊本県荒尾市府本1728-1

営業時間:9:00-17:00 定休日:不定休 駐車場:50台(バス可)

Instagram



# 小代焼ふもと窯

窯元 井上泰秋 井上尚之

世代間で魅せる

伝統と多文化の融合

「加藤清正御用窯の発祥窯」と云われる古畑窯跡地のすぐそばに窯を移し、五十年以上。窯元の井上泰秋氏はこの地で息子・尚之氏や弟子と共に伝統を守り続ける。現存する小代焼の窯では最大級の六袋の登り窯を有し、木灰・藁灰・長石などを独自に配合した釉薬を用いる。小代焼の代表的な技法「打ちかけ流し」で大作を創り上げる他、尚之氏は中世ヨーロッパで生まれた技法を取り入れるなど、伝統と多様な文化の融合を展開している。併設の展示資料館では小代焼四百年の歴史に触れることが出来る。

鉢 円径約25cm×高さ約5.5cm



小代瑞穂窯 TEL:090-4588-3665

〒864-0014 熊本県荒尾市上平山914

営業時間:10:00-17:00 定休日:不定休 駐車場:有

E-mail mizuhogama@gmail.com



Instagram

13 ※展示会の御案内は Instagram から、お問合せはメールにてお願いします。



# 小代瑞穂窯

窯元 福田 るい

小代の風格に  
モダンな造形美を

昭和三十五年、古小代の収集家であった福田良水氏を手本とし、その息子豊水氏により開窯。現在は豊水氏の娘るい氏が窯元を務め、伝統的な技法に独自の焼成法を取り入れ、生活に寄り添う器を提案している。しのぎや印花など美しい模様その他、従来の青小代に更に深みを出した藍釉が特徴。大正時代は油絵を学び、その後益子の島岡達三氏に師事。彫金や草木染などで体得した自然素材の使い方を作陶へ還元している。伝統と現代が融合した作風が人気を呼び、全国各地や海外で精力的に作品を発表している。

しのぎ ピッチャー 口径約9.5cm×高さ約20cm

12



小代本谷ちひろ窯 TEL・FAX:0968-68-6459

〒864-0131 熊本県荒尾市川登2131-74

営業時間:10:00-17:30 定休日:不定休 駐車場:5台

HP <https://www.chihiro gama.com/> E-mail [syoudai.chihiro gama@gmail.com](mailto:syoudai.chihiro gama@gmail.com)

Instagram



# 小代本谷ちひろ窯

窯元 前野智博

小代の心を  
日々の暮らしに

会社勤めを辞め二十八歳から陶芸の道を志した前野智博氏。小代瑞穂窯にて七年間修行した後、さらなる学びのため沖縄へ渡る。焼き物で有名な「やちむんの里」にて中国や韓国、東南アジアと様々な文化が入り混じる環境で研鑽を積み、平成十年開窯。以来、小代焼認定伝統工芸士として深い渋みの器を作りながら、明るい色やモダンな形状など現代の暮らしに馴染みやすいデザインも展開している。沖縄で培った独特の絵柄や風合いも作品の一部に反映されており、展示場には遊び心溢れる様々な器が並ぶ。

楕円 しのぎ皿 横約22cm×縦約8cm×高さ約3cm



小代焼岱平窯 TEL・FAX:0968-53-9245

〒861-0834 熊本県玉名郡南関町宮尾470

営業時間:10:00-16:00 定休日:不定休 駐車場:5台

ECサイト <https://taiheigama.stores.jp/> E-mail [taiheigama@gmail.com](mailto:taiheigama@gmail.com)



Instagram

# 小代焼岱平窯

窯元 坂井博樹

独自の割竹式登り窯で  
自然美宿る作品を

小代焼の繁栄を築いた古小代窯跡そばに昭和四十五年、先代・岱平氏が思いを寄せて開窯。「自分が生まれ育った地元の土を使いたい」と語る現在の窯元坂井博樹氏は先代より小岱山の鉄分の多い胎土を使用し、釉薬は熊笹や藁、孟宗竹の灰を原料とした自然由来のもので手作りする。杉や松を燃料に、「割竹式登り窯」という竹を割って伏せたような形状の窯でじっくりと焼き上げ、その灰が産み出す変化も作品の持ち味のひとつ。四季折々の自然の恩恵に感謝しながら「そっと寄り添うものづくり」を心がけている。

黄小代 徳利 幅約8.5cm×高さ約12.5cm 猪口 口径約6cm×高さ約5cm



小代松風焼野田窯 TEL・FAX:0968-53-1531

〒861-0803 熊本県玉名郡南関町関町1566

営業時間:10:00-17:00 定休日:火・金曜日・不定休 駐車場:10台

E-mail matsukazeyakinodagama@gmail.com



Instagram



# 小代松風焼野田窯

窯元 野田義昭

伝統の古松風焼に  
新しい風を

江戸末期の嘉永年間、小代焼葛城窯で学んだ野田廣吉氏が開いた小代焼のひとつ「松風焼」。昭和十二年から約五十年もの間閉窯していたものの、文献や作品を頼りに義昭氏が再興。昭和五十八年より焼き物の源流・韓国に渡り焼き物の基本を学び、帰国後に芦屋市の滴翠美術館陶芸研究所で更なる研鑽を積み、昭和六十三年に満を持して開窯。独自に配合した釉薬の他、表面に型押しする印花や線彫りなど多様な技法を導入し、土の配合より強度を上げることにも成功。昔ながらの松風焼に、義昭氏の新しい風が吹き込まれている。

青小代 マグカップ 口径約8cm×高さ約9cm



小代焼一先窯 TEL・FAX:0968-78-5631  
 〒869-0106 熊本県玉名郡長洲町永塩1612-3  
 営業時間:11:00-17:00 定休日:不定休 駐車場:5台  
 E-mail issakigama@gmail.com



Instagram

21 ※お越しの際はご注意ください。



## 小代焼一先窯

窯元 山口友一

地元の素材にこだわり  
 伝統と現代の融合を

長い修業期間を経て、先代・山口耕三氏（ちざう）が昭和六十年に熊本県玉名郡長洲町に開窯。名は近隣の一先宮から拝命したもので、現在は二代目の友一氏（ともひさ）が窯元を務める。表現が難しい青小代をシャープな平皿に昇華させるなど独特な作風が特徴。土や釉薬（ゆうやく）の原料など地元産の素材を重んじ、釉薬の原料となる藁灰（わらかい）は所有する田んぼから製出する。窯の内部を酸素不足にする還元焼成にて焼き色を変化させ、独特の表情を生み出す。『伝統と現代を併せ持つ器』を指標に、現代の暮らしに根付くうつわを追究している。

青小代釉プレート皿 円径約27cm×高さ約2cm



小代焼たけみや窯 TEL:096-285-7563 FAX:096-285-7564

〒861-3104 熊本県上益城郡嘉島町北甘木2222

営業時間:10:00-18:00 定休日:不定休 駐車場:10台

23 HP <http://www.takemiyagama.co.jp/> E-mail [info2@takemiyagama.co.jp](mailto:info2@takemiyagama.co.jp)

Instagram



# 小代焼たけみや窯

窯元 三代 近重 治太郎

近重 眞一

先代の想いを  
美しき意匠に

明治維新後途絶えかけていた小代焼を昭和六年、初代・近重治太郎氏が熊本市健軍(古称たけみや)で再興。原料に縁のあった嘉島町に窯を移築し、現在は祖父の傍で窯に親しんでいた孫・眞一氏が窯元を務める。小代焼は元々茶陶としても需要が高かったことから、初代は肥後古流の師範免許を取得し茶道を通してうつつわの研究を重ねた。その姿勢を受け継ぐ眞二氏の作品は、力強さの中に潜む繊細な表情が魅力のひとつ。釉薬をうつつわにとっての服と位置づけ、一点一点に美しい服を着せるよう、丁寧な作陶を心掛けている。

白小代 筒花入れ 口径約 12cm × 高さ 25cm



小代焼松橋窯 TEL・FAX:0964-33-3168

〒869-0502 熊本県宇城市松橋町松橋661-1

25 営業時間:10:00-17:00 定休日:不定休 駐車場:5台



## 小代焼松橋窯

窯元 長木 實

伝統工芸の魅力を  
日常生活の中に

平成十年、現窯元・長木實氏が開窯。實氏は、中学卒業後熊本県工業試験場窯業部へと進学し、ふもと窯の井上泰秋氏と切磋琢磨しながら研鑽を積んだ。その後愛知県で修行を重ね、土地に縁があり現在の宇城市松橋町に開窯した。閑静な住宅街に佇む、小学校の木造校舎のような工房。室内には抹茶碗や水指、茶入などの茶道具から日常食器、大皿など様々な表情の小代焼が行儀よく並んでいる。實氏は注文品などをひとつひとつ製作する傍らで、より高い技術を要する大皿なども作り続け、常に腕を磨いている。

青小代 花入れ 胴幅約9cm×高さ約15cm



・御船ICから車で約7分・JR熊本駅から車で約30分



・松橋ICから車で約10分・JR松橋駅から車で約5分

※各窯元の詳しい位置は、GoogleMAPにてご検索ください



三池山から小岱山

熊本県北西部、小岱山の麓  
約四百年の伝統を守り続ける  
十一の窯元それぞれの想いが  
今日もまた  
新しい小代の歴史を  
紡いでいます

小代焼窯元の会 TEL:0968-68-1623

発行者：熊本県北広域本部玉名地域振興局 総務振興課 令和5年1月

 Instagram



小代焼窯元の会 | 🔍

shodaiyaki\_web2021

展示会やイベント出展情報など、小代焼窯元の会からのお知らせを発信しています



小代焼パンフレット フォト<sup>プラス</sup> | 🔍

shodaiyaki\_panf\_ph

本誌掲載窯元の作品や作陶風景の写真を多数ご覧になれます